

かしわ もり 柏葉の杜



学校だより NO. 37
平成30年11月1日
八頭町立八東小学校
電話71-0108 FAX71-0107

「6つの言葉・6つのC」を大切に
京都大学・特別教授 本庶 佑 先生のノーベル生理学・医学賞受賞に思う

校長 谷口 道行



今年もノーベル賞の発表が10月1日から始まり、約2週間、次々と各賞の受賞者が発表されました。そうした中、みなさんもお承知のように、ノーベル生理学・医学賞を、京都大学・特別教授 本庶 佑 氏が受賞されました。また、米テキサス大学MDアンダーソン癌センター教授 ジェームズ・アリソン 氏も、同じ研究関連内容で受賞されました。

二人の研究は、がん治療に新たな道を作りました。従来がん治療は、外科手術と放射線療法、抗がん剤などの化学療法が主流でした。本庶先生は、免疫を抑制するタンパク質「PD-1」を発見し、がん免疫治療薬「オプジーボ」の開発につなげたことが評価されたのです。本庶氏らが開発したがん治療の免疫療法は、「第4の治療法」として近年注目されていました。ノーベル賞を選考したカロリンスカ研究所も、その受賞理由に「2人の発見はまったく新しいがん治療を打ち立てた」と評価しました。すばらしい業績を上げられました。

受賞に関して、ここではこれ以上、詳しくは触れませんが、私が今回の受賞の報道の中で、とても心に残ったのは、本庶先生が若い頃から大切にしてきた信念の「6つのC」についてです。

「好奇心(Curiosity)を大切に、勇気(Courage)を持って、
困難な問題に挑戦(Challenge)し、必ずできるという確信(Confidence)をもち、
全精力を集中(Concentrate)させ、諦めずに継続(Continuation)すること」

この6つの英単語の頭文字の【C】を大切にしてきたことが、研究の基本姿勢と話されていました。

私は、この「6つの言葉・6つのC」は、3つに分かれると思います。

まず、第一が、「好奇心を持って、新たなことや未知なることに臆することなく、勇気を持って、挑戦する」

第二が、「できないという不安に負けることなく、必ずできるという確信を持ち、全精力を傾け、その課題の解決に向け集中し没頭する」

そして、第三が、「困難な壁にぶつかることがあっても、諦めずに継続する。挫折することもあるが、粘り強く、挑戦し続ける。更には、工夫しながら挑戦を継続していく」

「6つのC」には、このように、それぞれの段階があるように思います。

本校の「つながる子」「うみだす子」「やりぬく子」の中の、「やりぬく子」そのもののようにも思います。

そして、本庶先生が、よく色紙に書かれる座右の銘が、「有志竟成(ゆうしきょうせい)」という言葉です。意味は、「志を曲げることなく堅持していれば、必ず成し遂げられる。一見すると困難のようにみえても、固い信念をもって事に当れば遂には実現される。」という意味です。(出典は『後漢書』、斉(せい)の攻略など不可能だと思っていた光武帝が、それを成し遂げた耿弇(こうえん)を称賛して述べた言葉です)

1991年に偶然に発見したタンパク質「PD-1」から、今回のノーベル賞受賞まで実に27年もの歳月が流れています。今回のノーベル賞受賞の報に接するにあたり、改めて「粘り強く、やりぬく」ことの大切さを、しみじみと感じました。

運動でも、勉強でも、生活でも、コツコツと地道に、諦めることなく、粘り強く「やりぬく」ことが、基本です。

おめでとうございます

【鳥取県発明くふう展】

【鳥取県産業振興機構理事長】

〔あつまれ！いきものたち〕

1年 中田 志和

（全日本学生児童発明くふう展 出展）

【日本弁理士中国支部長賞】

〔こわいぞ！おばけやしき〕

4年 朝倉 陽斗

（全日本学生児童発明くふう展 出展）

【鳥取県未来の科学の夢絵画展】

【科学の夢賞】

〔YMT ～Yama no Mimamori - Tai～〕

6年 西田 隼人

（第41回未来の科学の夢絵画展全国展出展）

野生のサルに注意を

本年も、野生のサルが出没し始めました。学校でも指導しますが、御家庭でも子どもたちへの指導をお願いします。

〔対処法〕

- ①サルに近づきすぎない。
（えさをやってはいけません。）
- ②サルを見つめてはいけません。
（サルへの威嚇になります。）
- ③走って逃げない。
- ④サルを脅したり、いたずらしたりしない。

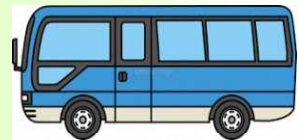


さんさんバスについて

役場より、さんさんバスでの下校の仕方について、下記のように変更しますという連絡が入りました。よろしくお願いします。

記

- ・車庫から、車を出すときに乗車します。
- ・下校一覽に上がっている時間の5分前に乗車します。
- ・11月1日より実施します。



とうほくとっとり・とうほくの海岸防災林再生プロジェクト苗木の受け渡し式

昨日、4年生が6月から育ててきた「とうほくとっとり・とうほくの海岸防災林再生プロジェクト」の活動で育ててきたクロマツの苗木の受け渡し式を行いました。

最初に、団長の「大呂亮太郎さん」や「橋本将汰さん」「大石佳奈さん」が今まで育ててきたクロマツを、「トッキーノ」に渡しました。この松は、小さな苗から育てた松と、種から育てた松の2種類です。夏の猛暑にも耐え抜いた松です。きっと、宮城・福島・岩手に行っても、大きく立派に育ち、海岸の再生へと役立つことでしょう。担当の方から、とても良く育てているとほめていただきました。

最後に、「トッキーノ」から、感謝状とトッキーノのピンバッジを頂きました。感謝状は、1階廊下に掲示しておきますのでご覧下さい。